

■伊東巳代治 官僚政治家。伊藤博文に認められ、山県有朋により枢密院の支配者となり、対外的な強行策を主張し続けた。

いとうみよじ

蕃書調所・1857＝ 長崎酒屋町年寄伊藤善平の三男として生まれる。

桜田門外変・1860＝ 3歳：

薩長同盟・1866＝ 9歳：

明治維新・1868＝11歳：

広運館で英語を学び、

廃藩置県・1871＝14歳：工部省電信寮の選抜試験に合格して上京、電信技術を修め、

明治6年政変 1873＝16歳：卒業後、長崎電信局を経て、兵庫県6等訳官となる。

初の民間工場1875＝18歳：

三つの反乱・1876＝19歳：再び上京、伊藤博文にその才幹をみとめられ、

西南戦争・1877＝20歳：工部省に採用され、以後その恩顧をうける。

明治14年政変1881＝24歳：参事院議官補となり、

新体詩抄・1882＝25歳：伊藤の渡欧に随行、伊藤を中心とした大日本帝国憲法制定の事業に参画。

秩父事件・1884＝27歳：

内閣発足・1885＝28歳：*第1次伊藤内閣の首相秘書官となり、

初の対等条約1888＝31歳：*伊藤が枢密院議長となると、井上毅のあとをついで枢密院書記官長に転じ、

帝国憲法発布1889＝32歳：

足尾鉍毒始・1891＝34歳：東京日日新聞社社長となり、官僚政治擁護の論陣をはった。

大本教・1892＝35歳：第2次伊藤内閣の書記官長となり、政党工作に手腕を振るう。

郡司千島探検1893＝36歳：

日清戦争始・1894＝37歳：

日清戦争終・1895＝38歳：全権弁理大臣として、日清講和条約批准のため清国に出張。戦時中の功で男爵となる。

自由党との連携も維持して、

子規句歌革新1898＝41歳：第3次伊藤内閣の農商務相となり、板垣退助の入閣を画策するも反対に会い辞任。大隈内閣倒壊も画策。

Bushidou・1899＝42歳：*山県有朋の推挙で枢密顧問官となり、

教科書疑獄・1902＝45歳：

日比谷公園・1903＝46歳：帝室制度調査局副総裁となり、皇室典範増補や皇室令制定に当たる。

日露戦争始・1904＝47歳：東京日日新聞社社長を退職。

日露戦争終・1905＝48歳：

大逆事件判決1911＝54歳：

明治天皇没・1912＝55歳：

晩年には政友会と気脈を通じて、しばしば政界の表面に登場、

ロシア革命・1917＝60歳：臨時外交調査会委員となり、

本格政党内閣1918＝61歳：シベリア出兵で単独出兵を主張、

ベルサイユ条約・1919＝62歳：パリ講和会議、

大暴落・1920＝63歳：

原敬首相暗殺1921＝64歳：ワシントン会議などに、積極的な対外政策をもって関与、

水平社結成・1922＝65歳：山県死去後も、枢密院に隠然たる勢力をもち絶対主義天皇制の維持につとめ、

金融恐慌・1927＝70歳：金融恐慌に際しては、若槻内閣を崩壊にみちびき、

世界恐慌・1929＝72歳：

海軍軍縮条約1930＝73歳：ロンドン海軍軍縮条約審議においては、統帥権干犯問題で政府を攻撃、

満州事変・1931＝74歳：

枢府勢力を誘導して協調外交を非難し、公然たる中国侵略策を強調し続けて、

帝人疑獄事件1934＝77歳：没した。

「翠雨荘日記」。